日本各地 15 大学の埋蔵文化財と調査・研究

大学と埋蔵文化財

～ヤマトの古代の国家と地方を支える埋蔵文化財の魅力～

2019

広島大学総合博物館

■広島大学では、広島市から東広島市への統合移転に伴い、東広島地区で1978年以降行われた分布調査によって遺跡が発見され、1981年に統合移転直前の発掘調査が行われました。調査は[illegible]

[illegible]、今も22遺跡が残されています。

■東広島地区では各時代の遺跡が発見されています。鴻の巣遺跡から出土したナイフ形石器や局部磨製石斧などの一群は、後期旧石器時代前半（約３万年前）のものと位置づけられ、西ガガラ遺跡第１地点出土の後期旧石器時代前半と中頃の資料と共に中国地方西部地域の編年基準資料となっています。

鏡西谷遺跡遠景（南より）

弥生時代の生活の痕跡は、鏡西谷遺跡や鴻の巣南遺跡などから発見されました。弥生中期から後期の甕や壺等の土器に加え、石鏃や砥石、祭祀に関係した道具とされる分銅形土製品や絵画土器も見つかっています。竪穴住居跡も多数検出され、一部は埋め戻して現地保存しています。

中世の遺跡としては、国史跡である中世鏡山城跡の南麓に[illegible]する鏡西谷遺跡や鏡東谷遺跡などがあります。居館跡と考えられる掘立柱建物や墳墓が検出され、土師質土器の坏や皿に加えて、瓦器、中国産青磁碗、東播系須恵器、亀山焼などが出土しています。

旧石器時代から中世・近世に至るまでの各時代の遺跡の存在は、西条盆地が人々にとって暮らしやすい場所だったことを物語っています。

■広島市内の霞地区[illegible]